

教育関連記事

エデュサン

edu sun

6

2025 / No.117



「小松菜、おいしいかな？」（ニューヨーク育英学園、デラウェア移動教室より）

1. 教育レポート

◆日々の生活を支える縁の下の力持ち 「グローバルロジスティックス」とは?

米国三菱倉庫会社による出張授業 NY 育英学園

◆教員研修で教育力の向上を図る NJ 補習授業校

◆ NJ 校との交流遠足を実施 NY 育英学園フレンズアカデミー

◆グリニッヂの公共施設を訪問 NY 日本人学校

◆日本の大学発スタートアップ支援プラットフォーム (NINEJP) が始動 NY で説明会を開催

2. NY 教育関連ニュース

◆ NY のスクールバス 1 時間遅れが 39% も増加、全体値は改善傾向にあるものの…

◆コロンビア大は戦わず「交渉」を選択 政権の要求、大半受け入れ圧力回避

◆ NY 公立校で金融教育を開始 金銭感覚の向上が目的

◆男児の就学「1年遅らせる」案 1年遅れで入学、学力・進学率高い傾向



エデュサン
edu sun

1. 教育レポート

EDUCATION REPORT

日々の生活を支える縁の下の力持ち 「グローバルロジスティックス」とは？

米国三菱倉庫会社による出張授業 NY 育英学園

2025.06.10

米国三菱倉庫（Mitsubishi Logistics America Corporation）社長の富田明さんと、豊田清さん、古野朋子さん、大西玄さんの4人が5月21日、ニューヨーク育英学園を来訪、4～6年生たちに向けて、「グローバルロジスティックス」をテーマに出張授業を行った。

米国三菱倉庫は、人々の日常生活を物流で支える三菱倉庫グループの一員として、主にアメリカで物流事業を開いている。出張授業では、同社で営業を担当する大西さんが、経済のグローバル化によりますます効率化かつ複雑化しているグローバルロジスティックスの現状を、昨今大きな懸念となっている地政学的リスクにも触れながら、分かりやすく解説した。

この日プレゼンテーションを行った大西さんも帰国子女。日本人とアメリカ人の両親の下、中学生まで日本で育ち、その後高校からはアメリカで過ごしている。そんなバックグラウンドをもつせいか、子どもたちも最初から非常に打ち解けた雰囲気の中で授業は始まった。

船舶輸送については「船で日本からアメリカまで荷物を運ぶには、どれくらい時間がかかると思う？」「太平洋とインド洋経由ではどちらが早いと思う？」などと、子どもたちに質問。「インド洋航路でも、本当はアフリカを廻らずに、アフリカ大陸とアラビア半島の間を通った方が早いんだけど、海賊が出るから、危ないんだよ」との説明に子どもたちは「海賊って今でもいるの？」と驚きの声を上げた。

続いて、船舶以外の主要輸送手段である航空、鉄道、自動車輸送特徴について解説し、トラック輸送についてはアメリカ地図の上に、日本地図を重ね日本南北の長さを示すと、「日本ってこんなに長いんだ」と子どもたちから再び驚きの声が上がった。「船と飛行機に積むコンテナはなぜ形が違うの？」「貨物列車の長さはどれくらい？」「モノを運ぶのって、（想像しているよりずっと）大変なんだ」などと、質問や感想も活発に飛び交い、授業は終始、にぎやかに楽しく進行した。最後は、Nintendo Switch 2を例に、発売日を迎えるまでにどのような準備やプロセスを経て、製造地から消費者に届けられるのかを説明し、「グローバルロジスティックス授業」を締めくくった。

[\(続きを読むウェブへ\)](#)



ヨーロッパの地図の上にアメリカの地図を重ね、アメリカの大きさを子どもたちに伝える大西さん

(photo: Mitsubishi Logistics America Corporation)



授業後、大西さんに感謝のメッセージ

を伝える児童会会長の小堀さん

(photo: Hidetoshi Takeda)

教員研修で教育力の向上を図る

NJ 補習授業校

2025.07.02

ニュージャージー補習授業校（小田切利幸校長 ニュージャージー州パラマス）では、学校行事や日々の授業に加え、教員の資質向上にも積極的に取り組んでいる。特に教員研修に力を入れており、年に2度、文部科学省から派遣された管理職による実践的な研修会を放課後の時間を使って開催している。

今年度最初の研修会では、渡邊肇教頭が「私の考えるグランドデザイン」と題した講話をを行い、学校全体の教育活動を向上させるためのさまざまな工夫を紹介した。講話後には、5つのグループに分かれて検討会を行い、意見交換をした。教員からは、「他学年の先生たちと教育の考え方や授業の工夫について話し合うことで、大いに学びがあった」などと前向きな声が聞かれた。

また、各担任は年に一度、管理職や他クラス・他学年の教員による「授業研修」を受けている。事後研修では、当日の授業で良かった点や改善点について意見を述べ合い、より良い授業づくりに向けた意見交換も行っている。新人教員ならではの新鮮なアイデアやグループ活動の工夫、ベテラン教員による落ち着いた机間指導や的確な声掛けなど、それぞれの教員が持つ個性と経験が光る授業を、他の教員が直接見て学ぶ機会は非常に貴重である。普段の業務ではなかなか知ることができない同僚の授業スタイルや教育観に触れることで、新たな発見や気づきを得られ、自らの授業改善への意欲や視野の広がりにもつながっている。

これからも、生徒一人一人の成長を支えると同時に、教員自身も学びを深め、専門性を高めることで、学校全体としての教育力がより一層向上していくことが期待される。ニュージャージー補習授業校では、「教える者が学び続ける」姿勢を大切にしながら、地域社会と連携しつつ、質の高い教育を提供し続けていく。（情報・写真提供：ニュージャージー補習授業校）

他のグループの発表にも熱心に耳を傾ける参加者たち



指導をしながら教員の成長を見守る管理職（手前）

NJ 校との交流遠足を実施

NY 育英学園フレンズアカデミー

2025.07.02

ニューヨーク育英学園フレンズアカデミー（笠間将平ディレクター）は6月3日、同学園ニュージャージー校（以下 NJ 校）との交流遠足を実施した。

当日は、初めて乗るスクールバスに子どもたちは大興奮。出発前から「バスはまだかな？」とドアの前で待ちきれない様子。乗車中も「川が見える！」「大きな橋だ！」と目を輝かせながら、車窓からの景色を楽しんだ。

NJ 校に到着後は、初めての場所にやや緊張した様子も見られたが、年少クラスとの合同保育が始まると次第に表情もやわらぎ、打ち解けた様子でのびのびと過ごしていた。広々とした園庭では、遊具や砂場、シャボン玉遊びなど普段とは違う遊びに夢中になる子どもたちの姿が多く見られた。思いっきり自由に走り回れたのが楽しかったようで、園庭には子どもたちの笑顔と歓声があふれていた。

昼食は NJ 校の子どもたちと一緒にお弁当を囲み、おいしく心なごむひとときを過ごした。帰りの車中では、たっぷり遊んだ疲れから眠ってしまう子どももいて、皆、満ち足りた様子だった。

子どもたちからは「また NJ の幼稚園にも遊びに行きたい！」「明日も行こう」「スクールバスに乗れてうれしかった」といった声が聞かれ、思い出に残る充実した1日となった。（情報・写真提供：ニューヨーク育英学園フレンズアカデミー）

スクールバスの到着に大興奮の子どもたち



大きな口でフーッと吹いたよ



砂遊び、楽しいね

グリニッヂの公共施設を訪問

NY日本人学校

2025.07.02

ニューヨーク日本人学校（コネティカット州グリニッヂ、森本恵作校長）の3年生は6月10日、社会科移動教室でグリニッヂ図書館とグリニッヂ市庁舎を訪れた。

グリニッヂ図書館では、スタッフの案内のもと、各フロアに備えられた本や施設を見学。部外者は立ち入り禁止の返却ボックスの裏側の部屋に入り、実際に本が返却される様子も見せてもらった。また、「どのように本を管理していますか」「たくさんのイベントをやるようになったのは、なぜですか」など、事前に考えた質問をして図書館の仕組みや工夫について学んだ。

図書館の後はグリニッヂ市庁舎を訪れ、施設内を見学した。地下の部屋では、町に伝わる古文書や古地図に触ったりしながら学びを深めた。2019年からグリニッヂのファーストセレクトマン（第一選任委員）を務めるフレッド・カミロ・ジュニアさんからも町の歴史や市庁舎の仕事について話を聞いた。子どもたちは「なぜファーストセレクトマンになろうと思ったのですか」「なぜグリニッヂはアメリカの中で最も住みやすい町といわれているのですか」などと質問をした。

見学活動を通して、公共施設ではどのような工夫や取り組みがなされているのかを知り、そこで働く人の思いに触れた。自分たちの学校がある町をより深く理解する貴重な機会となった。（情報・写真提供：ニューヨーク日本人学校）



グリニッヂ図書館でスタッフの説明を聞く子どもたち



フレッド・カミロ・ジュニアさん（中央・奥）に質問をする子どもたち



古地図を見て感想をメモ。昔と今ではどう変わったかな？



本の返却口も見学。意外と原始的な仕組みにびっくり

日本の大学発スタートアップ支援プラットフォーム（NINEJP）が始動

NY で説明会を開催

2025.07.01

非営利団体 NINEJP（ナイン JP：National Innovation Network for Entrepreneur Japan）は 6 月 20 日、同団体の概要と活動計画の説明会を JETRO ニューヨーク事務所で開催した。NINEJP とは、全国 9 拠点の大学発スタートアップ支援プラットフォームが連携し、日本全体で国際的に通用する事業を生み出すことを目的としたイノベーションエコシステム。科学技術振興機構（JST）が今年 2 月に設立した。

経済の長期低迷を経て、国際的競争力が大幅に低下する日本では近年、スタートアップの育成が不可欠であるとの認識が高まっており、政府は 2022 年、国内スタートアップ数を 5 年間で 10 倍にすることを目標とした「スタートアップ育成 5 か年計画」を策定した。これを受け、知の源泉から生まれるスタートアップ輩出機関としての大学の存在感も増している。事実、近年の大学発スタートアップの伸長は目覚ましく、上場する企業数も増加。しかし、海外のエコシステムと比較すると依然として裾野が狭く、成長性にも大きな課題が残されている。とりわけ、グローバルに活躍できるユニコーン級のスタートアップは極めて限られているのが現状だ。

NINEJP のミッションは、大学発スタートアップ創出支援に取り組む支援者が国内外における事業化推進や研究活動に関する情報、助言などを効率的・効果的に取得できるようにサポートすることで、説明会では、具体的な計画を披露した。今回の訪米団の座長で東京科学大学副学長の渡部俊哉さんは、全国 150 以上の大学や研究機関が NINEJP 参画しているとして、それらの幅広いステークホルダーとつながり、各拠点で育まれている技術シーズの価値と可能性を「見える化」することで、「社会課題解決へのビジネスアイデアへと磨き上げていきたい」と抱負を述べた。また、「海外で活躍している皆さんと皆さんとが持つネットワークが不可欠」と現地の参加者に協力を呼びかけた。[\(続きを読むウェブへ\)](#)



説明を終え、参加者に協力を依頼する渡部さん（写真：本紙）



NINEJP に参加する 9 拠点（提供：NINEJP）



説明会前には、森美樹夫・在ニューヨーク総領事・大使（右から 3 人目）を訪問した（写真：本紙）



説明会終了後、懇親会を開催した（写真：本紙）



エデュサン
edu sun

2. NY 教育関連ニュース

NEW YORK EDUCATION NEWS



写真はイメージ (photo: Unsplash / Element5 Digital)

NYのスクールバス 1時間遅れが39%も増加、 全体値は改善傾向にあるものの…

2025.06.03

ゴッサミストが分析した、ニューヨーク市のスクールバスの遅延に関する過去9カ月間のデータによると、市の公立校のスクールバスは、昨学年度と比べて全体的な遅延件数が減少傾向にあるものの、1時間を超える大幅な遅延は、2015年のデータ収集開始以来、最も高い水準に達していた。同紙が5月29日、伝えた。

市の公立校のスクールバスは、9000を超える路線で15万人以上の生徒を運ぶ。約1カ月を残す今学年度(24~25年)、これまでにバスの遅延総数は6万5811件で、昨年度から17%減少していた。ただ、そのうちの約3分の1に当たる1万9996件は、1時間を超える大幅な遅延で、昨年度から39%増加。1時間目の授業に間に合わず、成績に影響を及ぼすケースもあるという。

遅延の大部分は障害のある生徒を乗せたバスで、遅延全体の74%、また1時間を超える大幅な遅延では94%を占めた。保護者や支援団体は、生徒たちを時間通りに学校に送れないことは、生徒の教育を受ける権利を侵害する「法的問題だ」と主張している。

遅延の最も一般的な原因は交通渋滞だ。市教育局(DOE)の広報担当は、「遅延は交通渋滞、事故、道路閉鎖など、バス会社ではコントロールできない要因によるため、特別支援教育法の広範な違反には該当しない」と説明、「バスの遅延を減らす努力を続けている」と釈明した。



コロンビア大学 (photo: Unsplash / Santeri Liukkonen)

コロンビア大は戦わず「交渉」を選択 政権の要求、大半受け入れ圧力回避

2025.06.20

全米の名門大学に連邦補助金の停止をちらつかせ圧力をかけるトランプ政権に対し、ハーバード大学が提訴し戦う姿勢を示した一方で、コロンビア大学は交渉の道を選んだ。ニューヨークタイムズが 16 日、伝えた。

トランプ政権は、コロンビア大学がユダヤ人学生を反ユダヤ主義的な嫌がらせから適切に保護することを怠ったとして、同大学への連邦補助金 4 億ドルの取消しを決定。政権の要求を受け入れなければ資金回復は絶望的だと威嚇した。政権は 3 月、資金回復を検討するための 9 つの要求を大学に提示。その一つとして、同大学の中東・南アジア・アフリカ研究学科の自治権剥奪を求めた。

同大学の中東研究学科はこれまでに、反イスラエル的な傾向に支配されているとの批判を受けていた。政権は他にも、大学のセキュリティ課に逮捕権限を付与することや抗議運動の際のマスク着用を禁止することなどを求めた。

大学は、政権を満足させるため、要求の大部分は受け入れたものの、各要求の文言と内容を修正。政権が要求する自治権剥奪は避け、全ての中東関連プログラムの審査と改善、学部間の連携強化に同意、抗議運動の取締りと学生規律の変更を実施した。

4 億ドルの補助金はまだ返還されていないが、大学側は、交渉が続いている限りは提訴の予定はないとしている。



金融リテラシー教育プログラムを発表した、アダムズ市長（中央）、消費者・労働者保護局（DCWP）のヴィルダ・ペラ・マユガ局長（右隣）、DOEのアビレス＝ラモス局長（Photo: Michael Appleton / Mayoral Photography Office）

NY 公立校で金融教育を開始 金銭感覚の向上が目的

2025.07.02

ニューヨーク市のエリック・アダムズ市長は6月18日、公立学校向けの金融リテラシー教育プログラムを発表した。「Financial Literacy for Youth (FLY) イニシアチブ」と名付けられた同プログラムは、2025～26年度に15の学区でパイロットプログラムを実施し、30年までに全校に拡大する計画。amNYが同日、伝えた。

市長事務所の発表によると、市の金融エンパワーメントセンターと連携し、専門家が指導する。担当者は生徒と家族向けに無料のカウンセリングやワークショップを実施、仮想の銀行シミュレーションなどを提供する予定。対象地域は、ブロンクス6区、ブルックリン4区、マンハッタン3区、スタテン島とクイーンズが各1区。銀行口座を持たない住民が多い地域が優先された。

アダムズ市長は、「(学校で)複雑な数学は学ぶのに、税金の仕組みを知らずに卒業する現状を変えたい」と趣旨を説明。市教育局(DOE)のアビレス＝ラモス局長も「卒業後の人生に役立つ基本的スキル」として取り組みを支持している。

同様のクラスは今後、中・高校へも拡大される見通し。



写真はイメージ (photo: Unsplash / BBC Creative)

男児の就学「1年遅らせる」案 1年遅れで入学、学力・進学率高い傾向

2025.07.02

男の子は女の子よりも幼稚園入学時の学力や行動面で未熟とされ、これが将来の学業成績にも影響を与える可能性がある。こうした背景から、一部の保護者は「レッドシャーティング（就学延期）」と呼ばれる方法で、男児を6歳で幼稚園に入る選択をしている。これは特に裕福な白人家庭で多く見られるが、ニューヨーク市など一部地域では格差助長の懸念から原則禁止されている。この問題について、6月14日付けのニューヨークタイムズが伝えている。

全米で就学を1年遅らせる方式を男児に導入すべきとの声もあるが、保育費の負担や発達の個人差など課題も多い。とはいえ、年齢が1年上の子どもは、自己制御力や集中力の面で優れ、特に男児や低所得層の家庭の子どもに良い影響が出ているとの研究もある。フロリダ州やノースカロライナ州などの調査では、1年遅れて入学した子どもは学力が高く、進学率も高い傾向が示されている。

ただし、恩恵を受けるには、追加の1年が質の高い保育である必要があり、年齢の低い子どもにADHDの診断が増えるとの懸念もある。代替案として、誕生日ごとのクラス編成や遊び中心の学びの復活が提案されている。

supported by



edu sun